



麻布幼稚園だより 10月号

令和元年9月30日 港区立麻布幼稚園 園長 藤田 智子

『 応援の秋 』



園長 藤田 智子

暑さの中に秋の爽やかな風を感じる季節になりました。園庭の水道で手を洗っていた子どもたちから、「水道の水、最初に出る時に温かい水が出なくなったね」「そうだね。冷たくなったね」と話す声が聞こえてきました。校庭で思い切り走って幼稚園に戻ってきた子どもたちは、「走ると暑いけど、風がすーっとして気持ちがいいね」「前はずーっと暑かったのにね」と、それぞれに季節の変化を体で感じながら生活する様子が見られます。

気候が良く活動しやすくなるこれからの時期、体をたくさん動かして遊ぶ経験を取り入れ、健康な身体作り、体力の向上に努めていきたいと思えます。

幼児期は、運動機能が急速に発達し、多様な動きを身に付けやすい時期と言われています。体を動かす遊びを通して、体内の様々な神経回路を複雑に発達させていくことにより、タイミングよく動いたり力の加減を調整したりする力、身を守る動きや将来的にスポーツに結びつく動きなど、多様な動きの基礎が身に付いていきます。良い姿勢で椅子に座る、体のバランスをとりながら立ったまま靴を履く、階段のスムーズな昇降など、生活に必要な様々な身体の動きも運動能力と関わっています。また、体を動かす遊びを十分に楽しむことは、基礎的な体力や運動能力を発達させるだけでなく、コミュニケーション能力など社会性の発達や、やる気や集中力などの発達を促すことにもつながっていくと言われています。文部科学省調査によれば、「より多くの友達と活発に遊びを楽しむ幼児ほど運動能力が高い傾向にある」という調査結果が明らかになっています。ここで大切なのは、幼児にとっての運動は、トレーニングのように特定の動きを繰り返すことではなく、『自発的に様々な遊びを経験し、楽しく体を動かす中で多様な動きを獲得すること』です。楽しそう！やってみたい！という意欲をもって積極的に遊びの場や友達など周囲の環境に関わることで、心と体が相互に密接に関連し合いながら発達していきます。「体が動く・心が動く・心が動く」と、運動遊びにおける幼児の姿を表した言葉ですが、やってみたら楽しかった！という経験が、またやりたいという気持ちにつながり、楽しみながらさらなる動きをすることにつながっていきます。心が動く、できなかったことや苦手なことにも挑戦しようという意欲が湧いてきます。やりたいという気持ちで自発的に始めたことは取組みの意欲が違い、子どもたちに大きな成長をもたらします。多様な動きが含まれる遊びをバリエーション豊かに楽しめるような工夫をしながら、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲を育てていきたいと思えます。

明日から、いよいよ10月、スポーツの秋本番です。10月26日には、親子運動会があります。今、各学級では、運動会に向けての取組を計画的に進めているところですが、運動会があるから体を動かす活動をするということではなく、発達段階を踏まえ、それぞれの時期に必要な経験を積み重ねてきたことを運動会につなげていくという意識のもと、取組を進めています。子どもたちは、学級のみんなと一緒に踊ったり、力いっぱい走ったり、またそれを好きな遊びの中でも繰り返し行ったりしながら、楽しんで活動しています。子どもたちの姿から、やらされるのではなく、やりたい！という気持ちをもって自分から取組むことの大切さを感じます。

できなかったことができるようになった喜び、うまくいかなかった悔しさ、友達と力を合わせてやり遂げた満足感、目標にたどり着けた達成感。いろいろな感情を味わい、心と体をいっぱい動かしながら、心身ともに健康に成長していくことができるよう、子どもたちの頑張りを支える『応援の秋』にしたいと思います。

10月の麻布幼稚園もどうぞよろしくお願ひいたします。